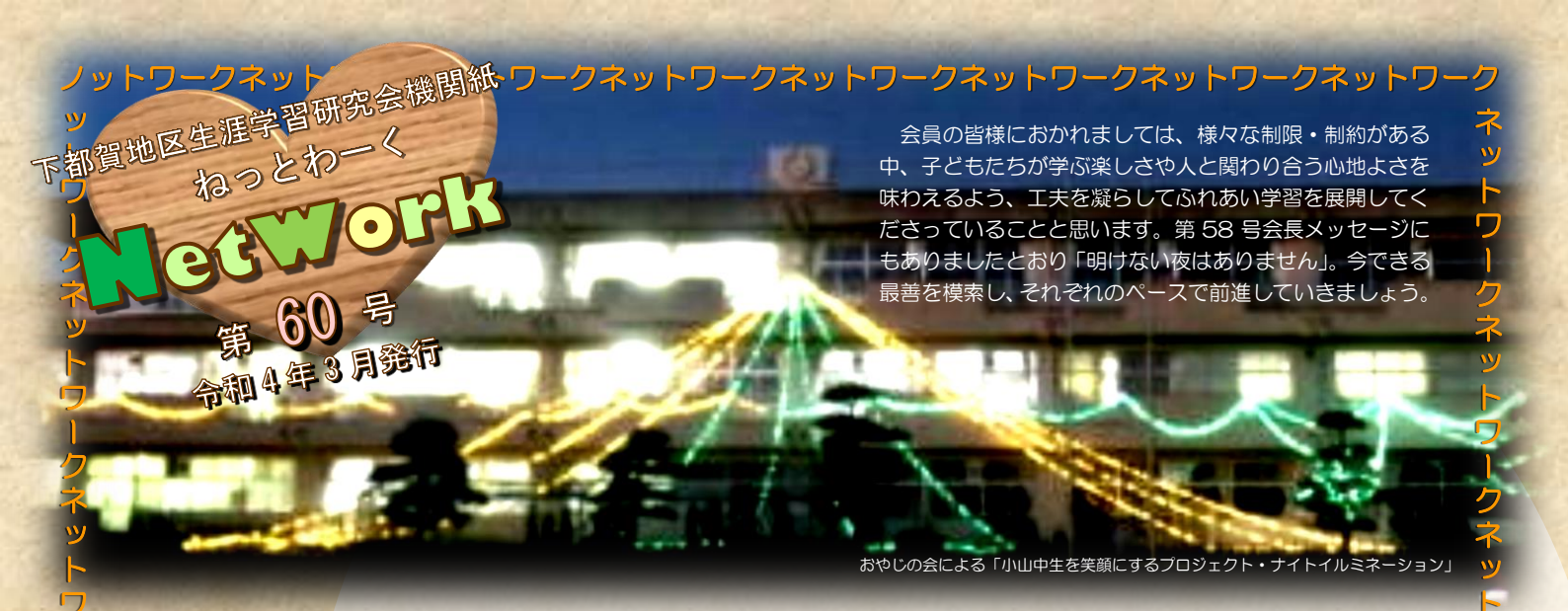
下都賀地区生涯学習研究会機関紙
ねっとわーく
Network
第 60 号
令和４年３月発行

会員の皆様におかれましては、様々な制限・制約がある中、子どもたちが学ぶ楽しさや人と関わり合う心地よさを味わえるよう、工夫を凝らしてふれあい学習を展開してくださっていることと思います。第 58 号会長メッセージにもありましたとおり「明けない夜はありません」。今できる最善を模索し、それぞれのペースで前進していきましょう。



おやじの会による「小山中生を笑顔にするプロジェクト・ナイトイルミネーション」

会長から会員へ向けて

生涯学習の灯は消えず

下都賀地区生涯学習研究会　会長
小山市立小山中学校　校長　　海老沼　功

新型コロナウィルスとの闘いが早２年を過ぎ、学校教育に限らず、世の中のすべてのことがウィルスという小さな小さな強敵に翻弄され続けています。人と人とが結びつき、よりよい人間社会を構築していくべき生涯学習にもたくさんの制限・制約を受け、子どもたちの健やかな成長に大きな役割を担ってきた地域の方々との交流が立ち行かなくなっています。

そんな中、本校は今年度県教委より、「学校と地域の連携推進モデル事業」の指定を受け、地域と学校との協働活動について研究を行うことになりました。しかしながら、新しい取組に着手することはもちろんのこと、既存の連携活動すら十分に機能しない状況に陥ることになっています。これでは、せっかく指定していただいた期待に添えず、本校を支えてくださる地域の方々に何もお返しできないと苦慮していたところ、本事業のマイスターをお務めいただいている廣瀬隆人先生から次のようなご指導をいただきました。

「新しい活動は要らない。」

「学校は目の前にいる子どもたちをいい子に育てることに集中しなさい。」

このお言葉で我々の頭の中が整理されました。

何もできないと嘆くより、今できることに「全集中」し、変幻自在な「水」の呼吸の如く技を繰り出せばよいのではないか。型にはめる必要のないことこそが、生涯学習の最強の武器であることを改めて再認識できたこの１年になりました。

シリーズ「事例から学ぶ 60」

皆川城内地区の学校間交流

栃木県立栃木特別支援学校　教諭　藤田　佐織

栃木市の皆川城内地区には、皆川城東小学校、皆川中学校、栃木特別支援学校の三つの学校があり、昔から「三校交流」を行っています。小学校の６年生、中学校１～３年生、特別支援学校の小学部４年生～中学部３年生が１２班前後に分かれて、顔合わせをしたり、一緒にゲームをしたりして楽しんでいます。この交流は、１年で終わりではなく、互いに複数年間継続して行うので、互いの理解や関わり方を深めていくことができます。

残念ながらこの２年間はコロナ禍により、直接会うことができず、間接交流を行っています。今年度は動画による自己紹介やリレー方式で一緒に作品を作り上げる交流を行いました。協力して作り上げた貼り絵の作品を見て児童生徒も喜んでいました。

直接交流ができる日を楽しみにしながら、相互理解を深める交流を今後も工夫して行っていきたいと思います。